

展示・収蔵品より

美を知る

297

定されてから70年の節目を迎える。

来月15日から当館で始まる企画展「秋田の宝 県指定文化財展」は、地域の価値を見直すことをコンセプトに、県指定文化財が一堂に会する。本稿では、展示品の中からベンケイガイ製貝輪を紹介したい。

貝輪というのは考古学の用語で、貝で作られた腕飾りを指す。縄文時代の腕飾りの素材には粘土や植物の繊維なども使われたが、主に貝で作ら

れていた。ベンケイガイはタマキガイ科に属する二枚貝で、殻長8センチほどと比較的大きく、貝殻は分厚く頑丈である。

ウガイやアカガイ、約5千年前の中期にはイタボガキという貝合に、時期によって主体となる貝の種類が移り変わるという。そして、約4千年前の後期になるとベンケイガイが大半を占めるようになり、全体の出土数も格段に増加して、東日本全域に広がること

で浜に打ち上がった貝殻を拾うのが主な入手方法となるが、拾える海岸は限られているようだ。

能代市の柏子所貝塚は、県内で確認された数少ない貝塚の一つである。1954(昭和29)年、開墾の際に貝層の存在に気がついた土地所有者が県に文化財指定を申請し、翌年1月に県史跡に指定された。その後間もなく、県教育委員会と能代市教育委員会が遺跡の重要性に鑑みて55、57、58年の3回にわたり発掘調査した。

調査では、海で採れる貝を主体とした貝層のほか、7基の土坑墓から8体分の人骨が確認され、縄文時代晩期前半に墓地として利用されたことが判明した。埋葬された状態の縄文人骨は県内初の発見で、当時大きな注目を集めた。葬送儀礼を検討する上で現在でもなお欠かせない調査事例の一つとなっている。

出土した遺物の中でも、貝角製品と貝製品は県内を代表する資料で、98(平成10)年に県の有形文化財に指定されている。柏子所貝塚の発掘調査は規模こそ小さかったものの、成果に注目すべき点が極めて多い。本年は県史跡に指

企画展「秋田の宝 県指定文化財展」

珍しい貝輪の生産地

柏子所貝塚では実に千点を超えるベンケイガイ製貝輪が出土しているが、そこには完成品のほか、製作途中でやめたものや、穴開けを失敗したとみられるものも含まれ、写真1、この遺跡が貝輪の生産地であったことを示している。完成品の中には外面全体を磨き込んだものもあり、滑らかな感触には思わずほれほれしてしまう。この手触りに至るまで、縄文人は相当な時間を費やして磨き込んでいたに違いない。

貝輪製作に関連する遺物として、アメーバ状砥石(写真2)と呼ばれるものがある。これは他の縄文遺跡ではめったにお目にかかれない。穴を開けた貝輪の内側から回転するように擦ることで、このようないびつな形になると考えられる(写真3)。

縄文人はベンケイガイをどのように入手していたのだろうか。この貝は水深3〜20メートルの潮間帯より深い海底の砂地に生息し、潮干狩りで採れるようなものではない。死んだ貝輪製作に関する文献をひもとくと、約7千〜6千年前の早・前期にはサルボ

(写真2)アメーバ状砥石 (写真3)アメーバ状砥石の使用状況の復元 (いずれも能代市教育委員会蔵)



写真2

写真3

写真5



生きたベンケイガイ



写真4

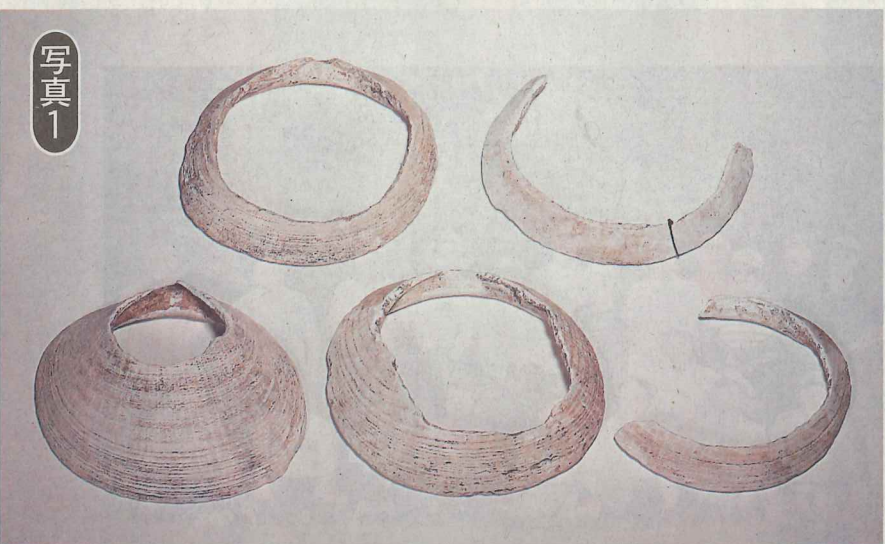
男鹿市の船越海岸に打ち上げられた大量のベンケイガイ(2024年7月)

又々 県立博物館企画展「秋田の宝 県指定文化財展」は2月15日から4月6日まで。柏子所貝塚から出土したベンケイガイ製貝輪のほか、鹿角製髪飾りや猪牙(ちよぎ)製垂飾品といった、縄文時代に盛んに作られた装身具なども展示する。開館時間は午前9時半〜午後4時(4月1日からは4時半まで)。入場無料。

3月16日には忍澤成視さんによる講演「貝輪の考古学」と、貝輪作り体験会を開催。講演会は午前10時から定員200人。体験会は午後1時から定員30人、小学生は保護者同伴。いずれも2月7日より予約を受け付ける。企画展や申し込み方法は館の公式サイトから。同館☎018・873・4121

忍澤氏によると、ベンケイガイはまれに大量に打ち上げられることがあり、こうした状況を利用して縄文人が効率的に貝輪素材を入手していた可能性を指摘している。子細を報告したところ、船越海岸での大量打ち上げは初耳とい、やや興奮気味の返事を頂戴した。大量打ち上げの要因は定かでない、不定期に発生する上、短期間で再び波にさらわれて姿を消す恐れがあるため、観測には定期的な確認の継続が必要との話だった。ベンケイガイの大量打ち上げはいまだ謎に包まれているが、縄文時代の貝輪生産を考える上で無視できない現象である。実態の解明には、打ち上げが確認された各地での記録の積み重ねが肝要であろう。以来、筆者は定期的に船越海岸を訪れ、記録と採集を続けている。(県立博物館副主幹・加藤竜)

写真1



ベンケイガイ製貝輪。左上は完成品。右上は磨きかけたものの破損品。下の三つは穴を開けて作業途中でやめたものと失敗したもの(能代市教育委員会蔵)